

“给…V” 構文の受動用法

Chinese *gei*-V as a Passive Construction

李 孟娟

LI Menjuan

1. はじめに

中国語の“给…V”構文は非常に複雑で、「授与」「受益」「使役」「受動」という意味が含まれることがよく知られている。本稿¹は「受動」という構文の意味に注目し、“给…V”構文に現れるVR構造、直接目的語の受動化、反復の制約及び残留目的語の有無という受動表現の特徴から“给…V”構文の成立条件について考察する。

2. 「受動」の意味を示す“给…V”構文の特徴

受動表現は、一般的には以下のような語順をもつ構文である。

(1) NP1 给 (NP2) VP

小王 给 (小李) 打死了。 [作例：自然度 1.00]²

王さんは(李さんに)殴られて死んだ。

動作の対象が主語の位置に前景化 (foreground) され、動作者が背景化 (background) されるという現象は、多くの言語の受動表現に共通して観察される現象である。受動表現では“给”が動詞 V に前置される点は「授与」及び「使役」の意味を持つ“给…V”形式の二重目的語構文と似ている。

(2) 授与: S 给 NP1 V NP2

我 给 他 送了一份礼物。 [作例：自然度 1.00]

私は彼にプレゼントを贈った。

(3) 使役: S 给 NP1 V NP2

¹ 本研究は浙江農林大学科研發展基金人才啓動項目（番号：2034020073）に補助されている。感謝申し上げます。

² 本稿では、“给”を含む用例として「中日対訳コーパス(中日対訳語料庫)」及び「北京大学 CCL コーパス(北京大学 CCL 語料庫)」を使用する他に作例もある。この筆者の自作した例文の成立容認度の判定については、方言差などを考慮して、標準語話者と認められる中国人 15 名(大卒以上)に容認度の判定を依頼した。方法としては、各例文について「自然」、「どちらとも言えない」、「おかしい」の判断を求め、「自然」は 1 点、「どちらとも言えない」は 0.5 点、「おかしい」は 0 点とし、その平均値を算出した。作例の末尾の[]内にこの数値を示している。

我 给 孩子 喝 一杯水。

[作例：自然度 1.00]

私は子供に水を一杯飲ませる。

“给”に後続する名詞句の NP2 に関しては、受益表現で“给”の直後の受益者が省略されても構文の適格性に影響しないのと同様に、受動構文でも“给”の直後の NP2 も省略可能である。ただし、受益表現の場合は特定の受益者が構文に現れなくても、前後の文脈で明示されていなければならない。それに対し、受動表現の場合は NP2 が特定される必要はなく、しばしば背景化されて、“给”に直接動詞が接続する形式をとる。

(4) 受益：

一退休没几个月就生了小孙女儿，小孙女儿三岁多了。我给看到两岁半。

『1982 年北京话调查资料』「北京」

定年したら何ヶ月もたらずに孫が生まれ、今は三歳ちょっとだ。私は二歳半まで面倒を見てあげたのさ。

(5) 受動：小王 给 打死了。[作例：自然度 1.00]

王さんは殴られて死んだ。

3. 受動表現の成立条件

中国語の受動構文一般について、構文論上の条件として、結果補語を動詞に伴う VR 構造を強く要求する、という木村・楊凱榮(2008)の指摘に対応するものである。

木村・楊凱榮(2008:70)によると、VR 構造とは「動詞と結果補語が構成する構造であり、動作行為の表す動詞(V)と、動作行為が対象にもたらす結果的状況(Result)を表す非対格動詞(または形容詞)とが結びついた一種の複合的な動詞句構造」であると概括されている。

コーパスでの受動構文の用例では、木村・楊凱榮(2008)の主張する R(Result)の結果的状況は、結果補語に限らず、さまざまな構造で現れる。例えば、次の例文(6)と(7)に示すように、結果補語を伴わず、動詞(V)にアスペクトの“了”及び“着”が後続するパターンもある。

(6) “我是老百姓，房子都给烧了，还不许家来看看吗？”

『烈火金刚』「北京」

「私は一般の庶民だ、部屋が焼かれているのに、家に戻って見てもだめなの？」

(7) 她给一个无形的锁链锁着，而他们鸟一样自由。

『穗子物语』「北京」

彼女は無形の鎖がかけられているのに、彼らは鳥のように自由だった。

では、“给…V”構造を用いる受動表現では、どのような R 構造が存在するのだろうか。本節ではまず、この問題を含め、受動表現の VP の構文的特徴を明らかにする。

上述のように、受動構文では VP の主語である NP2 の出現が任意であるという事実は、“給”の役割を「“給” 引进动作的施事主体 (“給” は動作行為を行う主体を導くこと)」(袁明軍 2007:145) とするような分析にとっては、問題をはらんでいる。たとえば木村・楊凱栄(2008)は、北京語の受動表現の出現を、受益表現に結び付ける分析を行なっている。この分析では、受動表現の“給”の後に位置する動作者を、主語である対象の状態変化の「誘発者」であるとみなし、受益表現の中で“給”の後に位置する受益者を、やはり主語が行う行為の「誘発者」と考えることにより、両者の間に構文の拡張が見られるとする。

しかし、受益構文では主語の S が VP の動作者であるのに対し、“給…V”形式を用いる受動表現では、受動文の主語として“給”の前に位置する NP1 は動詞句 VP の対象である。また、構文の面でも、受益表現では、V の直前に VP の主語が現れてはいけないのに対し、受動表現では、VP の主語である NP2 の出現が任意である。また、受益表現では VP が文末に必須項として目的語をもたなければならないが、受動表現では VP の後置目的語が原則として現れない、という違いもある。

そこで、本研究は“給…V”形式を用いる受動表現の主語 NP1 が VP との間で満たしていなければならない構文上の条件について、他の受動表現と比較しながら論じていく。

3.1 VR 構造について

木村・楊凱栄(2008:70)は、VR 構造を用いる用例として次の例文(8)を挙げている。動詞(V)の“撵”が動作行為を表し、結果補語の“走”がこの動作行為が対象にもたらす結果的状況(Result)を表している。

- (8)a. 狗 被 小红 撵走了。
 犬 AM シャオホン 追う-失わせる-PERF
 [犬はシャオホンに追い払われた]

- b.* 狗 被 小红 撵了。
 犬 AM シャオホン 追う- PERF
 [犬はシャオホンに追われた]

[木村・楊凱栄(2008:70)]

同様に、コーパスに現れる“給…V”構造の受動用法でも、次の例文(9)～(11)の示すように、動詞の直後に結果補語を伴うことがある。

- (9)我是从长城外边逃荒，来投奔我哥哥的；哪想到，头半个月他在火车站上扛大个儿，给轧死了。
 『金光大道』 「中日」

おれは長城の向うから、兄貴を頼って逃げて来たんだが、半月ほどで、兄貴は停車場で

荷役ばしていて轢き殺されちまった。

(10) 周永振笑呵呵地说：“刚才我见那骑车的给撞倒了，以为他奔过去要打架哪，嘻嘻！”

『金光大道』 「中日」

周永振が面白がっている。「さっさの、自転車に乗る人、ぶつかられて倒されて、てっきりぶんなぐりに行ったと思ったのによ。ヘッヘッヘ」

(11) 他告诉我，当年天云山特区党委的材料，一部分在1959年撤销建制时运走了，还有一部分存在这里，也在‘文化大革命’中给烧光了，现在哪能找到什么当年的规划书？

『天云山传奇』 「中日」

こう言うの——昔の天雲山特別区党委員会の資料は、一部分は五九年に特別区取消しの際に持ち去られた、一部分は当地に残されたが、これは文化大革命の時にすっかり焼き捨てられてしまった、昔の計画書なんぞ今ごろどこへ行って探せというのかね。

上記の例文(9)であれば、動詞“軋(轢く)”の後に“死(死ぬ)”という結果補語が現れている。(10)では、動詞“撞(ぶつかる)”に“倒(倒れる)”の結果補語が後続する。(11)では、動詞“烧(焼く)”の後に結果補語の“光(なくなる)”が続くことが分かる。例文(9)～(11)の文構造はまさに木村・楊凱榮(2008)の言及する「動詞+結果補語」というVR構造である。

受動表現の「R 構造」は、また次の例文(12)に示すように、主語の状態の程度を表す状態補語の場合にも可能である。

(12) 中午，汽车在一个小茶馆门前停住了。这里说是茶馆，其实只有用土坯垒起的三面土墙，因为常年烟熏火燎，墙壁和席箔盖成的屋顶都给弄得黑漆漆的。『轮椅上的梦』 「中日」
昼ごろ、トラックは小さな茶店の前に止まった。茶店と言っても、日干しレンガを積み上げた壁で三方をかこって、草を編んだ屋根を架けただけ。かまどの煙で、壁も天井も真っ黒にいぶされている。

さらに、動作による対象への結果的影響は、上述の「状態補語」だけでなく、次の例文(13)や(14)が示す「趋向補語」でも伝えることができる場合がある。いずれも、空間的な変化ではなく、時間的な変化の用法であり、完了のアスペクト助詞「了」が後続している。

(13) 平桥村只有一只早出晚归的航船是大船，决没有留用的道理。其余的都是小船，不合用；央人到邻村去问，也没有，早都给别人定下了。『呐喊』 「中日」

平橋村で大型の船といえば、朝出て夕方帰る便船が一隻あるきりで、いくらなんでもこ

れは使うわけにはいかない。そのほかのは全部小型で、役に立たない。人をやって隣村に聞きに行ってもらったが、みんなとうに約束済みになっていて、空きがない。

- (14) 忽而一个红衫的小丑被绑在台柱子上，给一个花白胡子的用马鞭打起来了，大家才又振作精神的笑着看。 『呐喊』 「中日」

突然、紅い長衣の小丑（道化役）が舞台の柱に縛りつけられて、胡麻塩のあごひげの男に鞭でひっぱたかれはじめたので、私たちは、やっとまた元気を取りもどして笑いながら見た。

また、“給…V”構造の受動表現の中に、次の例文(15)～(17)の示すように、動補構造が使われていない構文もある。

- (15) “我是老百姓，房子都给烧了，还不许家来看看吗？” 『烈火金刚』 「北京」

「私は一般の庶民だ、家が焼かれたというのに、家に戻って見てもだめなの？」

- (16) 张惠如的呼吸稍微平顺了一点，但是他依旧激动地说话，声音因为愤怒和着急在发颤：

“我们给丘八打了！……就在万春茶园里头。” 『家』 「中日」

張恵如の呼吸が少し楽になったが、相変わらず興奮していて、声は憤怒と焦躁にふるえている。「われわれは今日丘八に殴られた……万春茶園の中でだ」

- (17) 段誉叫道：“我不走，我不走！”但他没钟灵力大，给她拉着，踉跄而行。

『天龙八部』 「北京」

段誉は「帰らない、帰らない！」と叫んだが、鐘零の方が力が大きかったので、彼女に引っ張られて、よろめきながら歩いていた。

例文(15)では、動詞“烧”に補語成分が後続せず、完了を表すアスペクト助詞“了”だけが現れている。(16)も同様である。そして、例文(17)では、動詞の直後に補語成分が用いられないが、進行相のアスペクト助詞“着”が後続している。

では、なぜ補語成分がなくても構文の適格性に影響しないのだろうか。

動詞の直後に付加される助詞“了”の役割は、時間軸上で先行する動作がすでに完了し、その結果としての状態を示すものである。言い換えれば、動作が遂行した後にその結果がいまでも続いていることを表す。具体的には、例文(15)であれば、主語の“房子(部屋)”はその動作の完結“烧了”を受けて、「焼かれている」という結果状態になっている。例文(16)であれば、“打了(殴った)”という動作が完了されることによって、動作の対象である“我们(われわれ)”はすでに殴られているという結果状態に入っていることを意味する。

これに対して、進行相の助詞“着”は動作や状態が進行していることを示すため、受動表現の中では、対象である主語が、継続している動作や状態の中で影響を受けていること

を表す。具体的にいうと、例文(17)では、対象である主語は動作者の「引っ張る」という継続する動作を受けて、ずっと「引っ張られている」状態になっている。

以上のことから、主語の具体的な状況を要求しなければ、結果補語や状態補語が現れなくても、完了を表す“了”や進行相の“着”のような表現を用いると、主語の結果状態が表現でき、構文は成り立つのである。これは、“給…V”構造をとる受動表現はどちらかというと、主語である対象の状態のほうを重視するためであると思われる。

3.2 直接目的語の受動化

中国語の受動表現において、受動マーカ―は“给”のほかに、“被”“让”“叫”もある。次の例文(18)に示すように、“让”と“叫”は後に行為者を伴うことが要求されるのに対し、“被”は“给”と同様に行為者が現れなくても、構文は適格な表現である。

(18)a. 我的钱包(让/叫/被/给)小偷偷了。 [作例：自然度 1.00]

私の財布は泥棒に盗まれた。

b. 我的钱包(*让/*叫/被/给)偷了。

私の財布は盗まれた。

上の例文(18)から、受動マーカ―の“让”と“叫”は行為者を導き、それを顕在化する役割を担うことが窺える。ところが、“被”と“给”は行為者が必ずしも顕在化しない。このことは、“让”と“叫”を用いる受動表現が、“被”や“给”を用いる構文と異なることを示している。

一方、4種類の受動表現に共通する制約として、原則として直接目的語を主語とする受動化のみが可能という制約がある。

本動詞の“给”は、次の例文(19)のa文に示すように、間接目的語(IO)と直接目的語(DO)の両方を取り、典型的な二重目的語構文を構成する。そして、例文(19)のa文をそれぞれ、受動マーカ―の“让”、“叫”、“被”、“给”を用いて受動表現に変換すると、理論的には直接目的語が主語に立つものと間接目的語が主語に立つものの二通りの構文が考えられる。

(19)a. 张三给了李四一本书。 [作例：自然度 1.00]

張三は李四に本を一冊与えた。

b. 那本书(让/叫/被/*给)张三给了李四。

あの本は張三から李四に与えられた。

c. 李四(*让/*叫/*被/*给)张三给了一本书。

「李四は張三に本を一冊与えられた」の意

上の例文(19)のb文とc文の示すように、受動マーカ―の“给”は本動詞の“给”と共

に構文に現れることが許されない。これは「反復の制約」により、“給”の反復を避けるからである。なお、「反復の制約」に関しては次の節で分析を行う。

そして、例文(19)のように、a文の能動表現を受動表現に変えると、b文のように直接目的語が主語に立つ文は適格であるが、c文のような間接目的語が主語となる受動表現は容認されない。この間接目的語を主語に繰り上げる受動化ができないという制約は、次の例文(20)と(21)に示すような授与や受益の意味を表す構文でも共通に見られる。

(20)a. 我给妹妹买了一辆车。 [施関淦(1981:33)]

私は妹に車を一台買った。

b. 那辆车(让/叫/被)我买给了妹妹。

あの車は私によって妹に買いあたえられた。

b' 那辆车给我买下来了。

あの車は私によって買い上げられた。

c. 妹妹(*让/*叫/*被/*给)我买了一辆车。³

「妹は私に車を一台買いあたえられた」の意

(21)a. 元二嫂高兴地给老元开门。 『1993年人民日报』「北京」

元二姉ちゃんはニコニコしながら、元さんにドアを開けてあげた。

b. 门(让/叫/被)元二嫂给老元打开了。

ドアは元二姉ちゃんに元さんに開けられた。

b' 门给元二嫂打开了。

ドアは元二姉ちゃんに開けられた。

c. 老元(*让/*叫/*被/*给)元二嫂打开了门。⁴

「元さんは元二姉ちゃんにドアを開けられた」の意

上記の例文(20)と(21)は、いずれも間接目的語を主語に繰り上げる受動表現を構成することができないということを示している。この直接目的語の受動化について、王黎今(2012:120)は認知言語学の観点から次のように指摘している。

在认知被动事件时，辖域的选择在汉语中比日语受到更大的限制，我们可以把被动事件的辖域看作一个原型范畴，对受事直接施加影响力的为典型成员，对受事间接施加情感，情

³ 例文(20)のc文において、“让”と“叫”は使役の意味として構文は成立するが、間接目的語の受動化は認められない。そして“给”は一般の行為の授与構文としては成り立つが、受動表現としては成立しない。

⁴ 同注3

緒，情状，心里等方面的影响力的，典型性减低。在汉语中，对于非典型性的成员，往往用别的句式表达，不再进入被动句，……而日语对于非典型性的成员也一概包容，可以进入被动句。

[王黎今(2012:120)]

「受動という出来事を認知する場合、スコープ(Scope,区域)を選択する際に、中国語は日本語よりさらに厳しい制限を受けている。受動の出来事のスコープをプロトタイプとして見ると、受動の対象に直接的な影響力を与えるものがプロトタイプのな成員であり、受動の対象に間接的に感情、気分、状況、心理的な影響力を与える場合、そのプロトタイプ性が低い。中国語は、非プロトタイプの成員に対し、受動文を使わずにほかの構文を利用し表現するのが一般的で、…ところが、日本語は非プロトタイプの成員でも受動文で表現することが許容される。」(日本語訳は筆者による)

つまり、受動表現に関しては、日本語のスコープ(Scope)は中国語より広いのである。日本語は直接受動文と間接受動文の両方を用いることができるのに対し、中国語は基本的には出来事と直接関わりのある直接受動文しか使用できない。

以上のことから、中国語の受動表現は直接目的語の受動化しか認められず、間接目的語である物の受け取り手や行為の受け手(即ち、受益者)を提示する“給…V”構造は、そもそも受動表現に現れることができないと思われる。

3.3 反復の制約

前節では、直接目的語を主語に繰り上げる受動化における中国語の受動表現の制約について分析した。この節では、“給…V”形式を用いる受動表現の「反復の制約」について論じる。

(22)a. 张三给了李四一本书。 [作例：自然度 1.00]

張三は李四に本を一冊与えた。

b.*那本书给张三给了李四。

「あの本は張三に李四に与えられた」の意

c.那本书给张三拿走了。

あの本は張三によって持って行かれた。

(23)a. 我给妹妹买了一辆车。 [施関滄(1981:33)]

私は妹に車を一台買った。

b.*那辆车给我买给了妹妹。

「あの車は私に妹に買いあたえられた」の意

c.那辆车给我买下来了。

あの車は私によって買い上げられた。

(24)a.元二嫂高兴地给老元开门。 『1993 年人民日报』「北京」

元二姉ちゃんはニコニコしながら、元さんにドアを開けてあげた。

b.*门给元二嫂给老元打开了。

「ドアは元二姉ちゃんに元さんに開けられた」の意

c.门给元二嫂打开了。

ドアは元二姉ちゃんに開けられた。

例文(22)の a 文は本動詞の“给”構文であり、例文(23)の a 文は授与の意味を表す構文、そして例文(24)の a 文は受益構文である。これらの構文に受動マーカの“给”を加えると、b 文の示すように、いずれも非適格な構文となる。

これは、受動マーカの“给”は、本動詞の“给”や間接目的語を導く“给”と共に構文に現れることができず、“给”の反復を避けるという「反復の制約」があることを示している。このため、受動表現の“给”は c 文の示すように、単独で“给…V”構文を構成するのである。

このことから、“给…V”形式を用いる受動表現では、“给”の反復を避けるため、本動詞としての“给”や、間接目的語を導く“给”を含む能動表現に対応するような受動構文を持たない、ということが分かる。

3.4 残留目的語について—“给”と“被”の比較を中心に

中国語の受動表現では、一般的には、受動表現の動詞句は目的語をもつ他動詞であり、この目的語は主語の位置に置かれるため、他動詞の後には目的語が残らない。ところが、他動詞の後に目的語が残留する受動表現もあり、これが容認される場合は、受動マーカによって異なる性質を見せている。

(25)a.他被炮弹炸掉了手指头。 [勝川(2013:180)]

彼は爆弾に指を吹き飛ばされた。

(26)a.他被小偷偷走了钱包。 [勝川(2013:183)]

彼は泥棒に財布を盗まれた。

例文(25) a と(26) a では、共に“被”を用いる表現であり、主語と文末に位置する名詞句が、身体部位や所有といった「領属関係」を有する。そして、例文の示すように、主語の位置に現れるのは、動詞の目的語ではなくその「領属先」であり、本来の目的語である「領属物」を指示する名詞句が VR 構造の後に残っている。

このような、「領属先」を示す名詞句の主語格上げの成立に関しては、勝川(2013:185)によれば、「領属先と関係が想定しやすく、且つ緊密性が高い領属物のほうが“被”構文の容認度が高い」とする。

その反面、緊密性の低い領属関係を持つ名詞句は、次の例文(27)に示すように、許容度が格段に落ちる。

(27) *我被太郎撕破了报纸。 勝川(2013:185)

「私は太郎に新聞を破られた」の意

上記の例文(25) a と(26) a の示すような主語と残留目的語の間に領属関係を持つ“被”構文を“給”に入れ替えると次のようになる。

(25) b. ??他给炮弹炸掉了手指头。 [作例：自然度 0.47]

「彼は爆弾に指を吹き飛ばされた」の意

c. 他的手指头给炮弹炸掉了。 [作例：自然度 0.93]

彼の指は爆弾に吹き飛ばされた。

(26) b. ??我给小偷偷走了钱包。 [作例：自然度 0.37]

「私は泥棒に財布を盗まれた」の意

c. 我的钱包给小偷偷走了。 [作例：自然度 0.93]

私の財布は泥棒に盗まれた。

(28) a. ??小王给人夺走了幸福。 [作例：自然度 0.23]

「王さんは人に幸せを奪われた」の意

b. 小王的幸福给人夺走了。 [作例：自然度 0.90]

王さんの幸せは人に奪われた。

15 名のコンサルタントを調査した結果、方言差に関わらず、「領属物」が文末に残留しない例文(25)と(26)の c 文および例文(28)の b 文の方が許容度が高いということが分かった。

以上をまとめると、緊密性の高い領属関係を有する二つの名詞句において、“被”を用いる受動表現では、「領属物」が残留目的語として、文末に置かれることが許される。一方、“給…V”構造を用いる受動表現では、「領属物」が文末に残留しない方が容認度は高いという傾向が見られる。

4. おわりに

本稿では、“給…V”形式を用いる受動表現について考察した。“給…V”形式の受動表現の成立条件として、まず、VR 構造が必要とされる。この VR 構造において、R は結果的補

語、状態的補語のほかに、補語を伴わずに、完了を表す“了”や進行相の“着”を用い、主語の結果状態を表現するものもある。次に、“给…V”形式の受動表現は、直接目的語の受動化構文であり、間接目的語の主語への格上げである場合は容認されない。そして、“给”には「反復の制約」があるため、本動詞としての“给”や、間接目的語を導く“给”を含む能動表現を持たないということも見られる。さらに、“给…V”形式を用いる受動表現では、領属関係のある名詞句の「領属物」が文末に残留しない方が構文の容認度は高いという傾向が分かった。

参考文献

- 勝川 裕子(2013)『現代中国語における「領属」の諸相』 白帝社.
- 木村 英樹(2000)「“给”が使えない『ために』」 『中国語』489, pp. 32. 内山書店
- 木村 英樹(2004)「授与から受動への文法化—北京語授与動詞の前置詞化をめぐる」『言語』33(4), 58-65, 大修館書店.
- 木村 英樹(2008)「北京語授与動詞“给”の文法化—〈授与〉と〈結果〉と〈使役〉の意味的連携—」『ヴォイスの対照研究—東アジア諸語からの視点—』pp. 93-107, くろしお出版.
- 木村 英樹・楊 凱栄(2008)「授与と受動の構文ネットワーク—中国語授与動詞の文法化に関する方言比較文法試論」『ヴォイスの対照研究—東アジア諸語からの視点—』pp. 65-91, くろしお出版.
- 木村 英樹(2012)「北京官話授与動詞“给”の文法化」『中国語文法の意味とカタチ—「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究—』pp. 214-235, 白帝社.
- 楊 凱栄 (2009)「中日受益表現と所有構造の対照研究」『日中言語研究と日本語教育』2, pp. 1-12, 好文出版
- 袁 明军 (2007)「与“给”字句相关的句法语义问题」『语言研究论丛』7, 马庆株(主编) 邱广君(副主编)『汉语动词和动词性结构・二编』, pp. 138-150, 语文出版社.
- 施 关淦 (1981) 「“给”的词性及与此相关的某些语法现象」『语文研究』8, pp. 31-38 山西省社会科学院.
- 王 黎今 (2012)「日汉语被动句识解对比研究」『日本語と中国語のヴォイス』pp. 115-127, 白帝社.

辞書

- 『現代汉语词典 第6版』(2012) 中国社会科学院语言研究所词典编辑室[編] 商务印书馆
- 『中国語大辞典(上)』(1994) 大東文化大学中国語大辞典編纂室[編] 角川書店
- 『日本語百科大事典』(1995) 金田一春彦・林大・柴田武[編] 大修館書店
- 『現代汉语八百词(増訂本)』(1999) 呂叔湘[編] 商务印书馆
- 『汉语 800 虚词用法词典』(2013) 杨寄洲 贾永芬[編] 北京语言大学出版社
- 『現代汉语虚词词典』(1998) 侯学超[編] 北京大学出版社

用例出典

- 聞蔵Ⅱビジュアル 朝日新聞記事データベース
- 北京大学 CCL 语料库(北京大学 CCL コーパス)
- 中日対訳语料库(「中日対訳コーパス」)

(りもうけん・浙江農林大学)